

No.710 January 2016

ASAHI MACHI

Public Relations

㊦ 広報 あさひまち

いつもより
ちよつぴり薄め
雪化粧

2016

1

No.710

「地方創生」の実現にむけて

諦めぬ信念と前向きな行動

朝日町長 鈴木浩幸

あけましておめでとうございます。皆さまには輝かしい新年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。

さて、何かが変わった。そう実感できるとしたら、それはかなり大きな変化であると思います。

アメリカの経済学者によれば、「5年後の商品の6割は、今世に出ていないものである」と言っています。これは、今世の中に出回っている多くの商品が淘汰され、消えていくということです。

パソコンが登場し、インターネットが普及し、固定電話から携帯電話、さらにはスマートフォンへと、恐ろしい勢いで時代が変わっています。一昔前にはなかった新しい産業が生まれ、全世界で巨大な経済活動へと発展しています。さらには人工知能、人型ロボットなど、かつてのSFの世界は現実の世界となり、やがて現実の世界は、私たち人間の想像を遙かに超えた未来社会へと突き進んでいくでしょう。猛烈なスピードで駆け巡る、予想することさえ困難な時代のただなかに私たちは遭遇しているのです。

そんな激動の時代、「何が起るかを予想するこ

と」ではなく、「自分に何ができるかを知ること」とマイクロソフト社の創業者ビル・ゲイツ氏は言っています。さらに「夢を語ること」から「夢を実現していく」そんな力強い歩みを説いています。

「地方創生」が声高に叫ばれています。しかし私たちは、ただその叫びに乗って動き回っているのではなく、私たち自身が私たちの町づくりにおいて何ができるかを凝視した中で、一歩一歩確実に歩みを進めていかなければなりません。

天動説から地動説へ。また進化論がそうであるように、今までの規範となる考え方や常識を超えた何か。その未来に続く何かにあえて挑戦する。それは幕末の志士が成し遂げた明治維新のごとく、壮大な新たな地方の姿を築くため、朝日町民に綿々と受け継がれてきた「チャレンジ精神」を旗印に、自信と勇気、さらには常に前向きに諦めぬ信念を以て、平成28年、さらなるステップアップを目指します。

今年も皆さまにとりまして、健康で、明るく、楽しく幸せ多い一年でありますよう心からご祈念申し上げます、年頭のあいさついたします。

活力と思いやりのある暮らしの実現を

朝日町議会議長 長岡啓治

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた平成28年の新春を、晴れやかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

年頭にあたり、議会を代表して謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

今年は「申」年です。「猿」は信仰の対象としても馴染み深い動物で、器用で臨機応変な性質といわれております。議会も町と一致協力し、俊敏に町の発展のために対応してまいります。

さて、昨年のわが国における状況は、消費税の軽減税率の決定、TPPにおける大筋合意など、問題が山積しているように思われます。

朝日町にとっては、総合交流拠点施設「道の駅あさひまち（りんごの森）」が10月1日にオープンし、早々と1カ月の来場者が10万人を突破し、12月中旬には20万人を達成したことは、当初予定より大幅な増加となり心から安堵しているところであります。

また、地方創生事業においては今後5年間を目標とする「朝日町まち・ひと・しごと創生総

合戦略」が策定されました。議会においては、

町民が求める議会運営や社会情勢に対応した議員定数等の調査・検討のため「朝日町議会活性化特別委員会」を設置しました。将来を見据え、開かれた議会を目指して、積極的に意見の交換を行い、町民の皆さまのご期待に添えるよう努力してまいります。

今年も、交流人口の更なる増加を目指した施設整備や安心して利用できる子育て環境の整備など、各方面ですつと住み続けたい、魅力あるまちづくりの実現に向けて、皆さまと共に手を携えて各事業の達成のために頑張つてまいります。

私たち議員一同、町民の代表として、その役割と責任の重さを自覚し、決意も新たに、活力と思いやりのある暮らしの実現に向け、さらに創意工夫を重ね、住みよいまちづくりを目指してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が町民の皆さまにとって、実り多き年になりますことを祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

年頭のごあいさつ

清野千春さんに「村山地域農林水産業若者賞」

■農林振興課 農政係 ☎67-2114



村山総合支庁長から表彰状を受け取る清野さん

今年度の「村山地域農林水産業若者賞」に清野千春さん(沼回)が選ばれ、12月8日に行われた表彰式で村山総合支庁長から賞状などが贈られました。

りんご園を経営する清野さんは、りんごジュース製造やインターネットを活用した販売など6次産業化を積極的に展開。また、女性認定農業者、農業委員として活躍し、地域農業の振興発展に対する貢献が評価されました。

清野さんは、「就農して15年、夫とともにがんばってきたことが賞をいただくことになりうれしい。これからもおいしいりんごをお客さまに届けたい」とさらなる活躍を誓いました。

日東ベスト株式会社からまちづくり寄付金

■総務課 庶務係 ☎67-2117



町長に寄付金を贈呈する丹野工場長と國井主任

町は12月15日、日東ベスト株式会社(大沼一彦社長/寒河江市)より、まちづくり寄付金として金員10万円をいただきました。

これは、毎年11月3日に開催されている日東ベスト文化祭で職員の皆さんのチャリティーバザーによる売り上げの一部を寄付していただいたもの。来庁した大谷工場の丹野弘一工場長(写真中央)と國井陽子主任(写真右)は贈呈にあたり「工場のある大谷地区の方々には日頃からお世話になっております。今後とも朝日町がますます発展されることをご期待申し上げます」と述べました。

和合地区の新たな防災拠点 第1分団第3部のポンプ庫を移転

■総務課 防災係 ☎67-2111



完成を記念し、関係者でポンプ庫前で記念撮影

和合地域交流センター「友和館」南側に、和合地区防災拠点施設として整備を進めていた町消防団第1分団第3部のポンプ庫がこのほど完成し、12月20日お披露目式が行われました。

施設にはポンプ自動車を格納するほか、有事の際に備えた水や食料など、町の救援物資を備蓄する倉庫も併設。式には町や消防団、地区の関係者約40人が出席し、佐藤純一郎長は「立派な施設を整備していただき感謝いたします。出動がないことが一番ですが、有事の際には迅速に対応し、地域の安全安心を守るため尽力いたします」と気持ちを引き締めていました。

日頃の食生活を見直す機会に 朝日町健康まつりを開催

■健康福祉課 健康推進係 ☎67-2116



講師を務めた「ゆにしあ」代表理事の池田百合子管理栄養士

12月12日、町開発センターを会場に、朝日町健康まつりが開催されました。

町民の健康づくり事業の一環として4年前から行われているこのまつり。会場には、健康に関する情報の展示やNPO法人「らっふる(寒河江市)」による手作りお菓子の販売コーナーが設けられたほか、輪投げとスポーツ吹き矢で軽い運動を体験できるコーナーも用意。さらには体験イベントとして、一般社団法人「ゆにしあ(山形市)」代表理事の池田百合子管理栄養士を講師



ヘルシーメニューを作る調理実習の様子

に、ヘルシーメニューを作る調理実習や「めざせ!ヘルシーライフ」おからだチェックと食べ方のコツ」と題した記念講演が行われました。

池田氏は「自分で食事を作り続け、食べさせてもらうのではなく、自分で食べ続ける努力をすることが大切」と健康生活のポイントを紹介。参加者は「調理実習も講演もとてもわかりやすく楽しかった。今日教えていただいたヘルシーメニューで、家族内で健康づくりを意識したい」と、自らの健康づくりや食について見直していました。

2年7ヵ月の活動を終了 橋本路情報交流推進員 活動報告会

■政策推進課 地域情報係 ☎67-2112



これまでの取り組みを振り返り、活動報告をする橋本路隊員

12月末をもって退職する橋本路町情報交流推進員(地域おこし協力隊)の活動報告会が、12月14日に行われました。各市町村の地域おこし協力隊や、県、市町村の担当者、町民の方々など約60人が参加。橋本推進員が着任以来2年7ヵ月間の活動を振り返りました。

報告会では、桃色ウサビを活用した情報発信、山菜を使った商品の開発、町の飲食店を紹介した冊子作成などの成果を報告。後半には、退職後に関わっていく



飲食店紹介にも登場したコシーナ・デ・ミエの長岡さんと記念撮影

活動について紹介し、今後の抱負などを語りました。

発表後には親交の深かった長岡美恵さん(栗木沢)、佐竹敏子さん(太郎一)が花束を贈呈。橋本推進員は「本当に多くの人にお世話になりました。感謝しています。今後は町を離れ、鶴岡で活動しますが、町エコミュージアム案内人の会の一員として、朝日町にはこれからもたくさん関わっていきます。引き続きよろしくお願いします」と町への熱い思いを話しました。



12/15 道の駅あさひまち「りんごの森」大盛況 続くにぎわい 来場者20万人を達成

12月15日、道の駅あさひまちへの来場者が20万人を達成しました。記念すべき20万人目は庄内町から訪れた小林久美子さんで「毎年、産直和合に来ており、今年は道の駅ができると思っていたのでぜひ来てみたかった」と、思わぬ受賞にうれしそうな表情。このにぎわいに高橋寿之駅長は「この達成はお客様や町民の皆さまのおかげ。また来ていただけるようにさらに頑張りたい」と、さらなる発展を誓いました。



12/16 税金の大切さを身近な例えで学ぶ 町内3小学校で租税教室

寒河江税務署と町が主催する租税教室が12月3日に宮宿小と西五百川小、16日に大谷小学校で行われ、6年生が税の基礎知識を学びました。

講師は町税務町民課の職員が務め、児童たちはゴミ収集や除雪などを例に税金の使い道を学習。そのほか、模擬紙幣で1億円の重さ(約10キロ)を体験しました。ある児童は「税金は世の中になくてはならないもの。大人になったらきちんと納めたい」と話していました。



12/19 年越しと2016年を「お先に」 そば打ちとカレンダーづくり教室

12月19日、いもがわ少年教室「そば打ちとカレンダーづくり」が西部公民館で開催され、6組19人の親子が参加しました。

午前はそば打ち体験で、手作りそばを味わい、午後はコラージュカレンダーをつくるというこの教室。そば打ちは若月秀一さん(西船渡)と海野正基さん(西船渡)、コラージュカレンダーづくりは安藤美智子さん(松原)が講師を務め、そばで一年を締めくくりつつ、手作りカレンダーを手に楽しい年になるよう願いを込めました。



11/28 朝日町若手農業者の会がイベント りんごとシードルで朝日町をPR

町の若手農家による「朝日町若手農業者の会(遠藤直裕会長/舟渡)」が11月28日、仙台市で町特産のふじりんごやりんごのお酒「シードル」のPRを行いました。イベント会場では約500人の来場者に対して、町の紹介カードとともにふじりんごとシードルを無料で提供。来場者は「りんごもシードルもとても美味しい。朝日町に行き、今度はワインを飲んでみたい」と話し、町若手農家との交流を楽しんでいました。



12/12 蜜ろうと木の葉や実などで仕上げた芸術作品 クリスマスキャンドルづくり

朝日ナチュラリストクラブ(長岡信悦代表)の「クリスマスキャンドルづくり」が12月12日に創遊館で開催され20人が参加しました。

季節に合わせたさまざまな同クラブの活動の企画で、今回は蜜ろうと野ばらの実やどんぐり、ヒバの葉など自然の素材を使ってオリジナルのクリスマスキャンドルをつくるという活動。ひとつとして同じ作品はなく、想像をめぐらせつくり上げるキャンドルは、どれも芸術的な作品ばかりでした。



12/12 五百川橋(旧)の開通88周年記念事業 五百川橋(旧)米寿を祝う会

昭和2年に宮宿町と西五百川村を結ぶ交通網として架けられた五百川橋(旧)の架橋88周年を記念して、12月12日、「五百川橋(旧)米寿を祝う会」が五百川橋(旧)周辺で開催されました。

「米寿を祝う会実行委員会(鈴木昭雄実行委員長:西船渡)」が主催。テープカットを行い、助ノ巻側から西船渡側に約100人の参加者で渡ったあと、祝賀会として餅つきや鏡開きのほか、獅子舞と大黒舞が披露され、地域住民で節目を祝いました。



12/13 迫力ある演奏で観客を魅了 陸上自衛隊第6音楽隊クリスマスコンサート

陸上自衛隊第6音楽隊のクリスマスコンサートが12月13日、創遊館を会場に開催されました。

第1部では有名な吹奏楽曲を中心に4曲、第2部ではAsahi自然観テーマソング「北のハートピア」をはじめ、クリスマスや演歌、映画の楽曲を披露。各曲の紹介や演奏間でのナレーションを交えながら演奏を披露し、聴いたことのある名曲やなじみ深い曲で約300人の観客を楽しませました。



12/13 手編みでつくり上げた自分だけのベスト 楽笑楽生こうざ27

12月13日、西部公民館の楽笑楽生こうざ27「手編みを楽しもう!」が開催され、17人が参加しました。

笑って楽しくチャレンジできて、趣味につながる内容を学ぶ本事業。今回の講座は全3回で行われ、手編みのベストづくりに挑戦しました。参加者は「みんなとおしゃべりもして、笑って学べるのがうれしい」と話し、講師の今井綾子さん(新宿)に編み方のポイントを習いながら、楽しそうに編み上げていました。



プロスノーボーダー・児珠藍さん&ウサハ自然観で競演

町在住のプロスノーボーダー・児珠藍さんによるスノーボードのワンポイントレッスンが Asahi 自然観で行われました (1/4)。



旨さの万有引力! 引カバーガー特別販売

2014 年 11 月に誕生した町のご当地ハンバーガー「引カバーガー」が多くの方より要望を受け、特別販売されました (1/25)。



2015 神風船まつり

願いや夢などを記した和紙の風船内の空気を暖め、熱気球の原理で夜空に飛ばす神風船まつりが行われました (2/7)。



和合地域交流センター「友和館」が完成

和合地域の振興などを目的に、町が整備を進めてきた和合地域交流センター「友和館」が完成しました (4/2)。



開講! あさひまちブランド大学 2015

昨年度に引き続き、町が進めるブランド戦略の中核をなす「あさひまちブランド大学 2015」が開講しました (5/12)。



始動! 親しみやすい役場ナンバーワンプロジェクト

町はユニフォームとしてポロシャツを導入。「親しみやすい役場 ナンバーワンプロジェクト」の一環でスタートしました (6/1)。



朝日川で雪帽子のアート

大寒は暦の上で最も寒い時期。石が雪を被っているようなこの時期ならではの朝日川の様子を写真に収めました (1/22)。



密着! 朝日町除雪隊 24 時

町の道路は誰が、どのように除雪しているのか? 町道除雪を担う「朝日町除雪隊」に町広報が密着しました。(2/2)。



エコミュージアム案内人の会による酒蔵見学会

地酒「豊龍」を作る鈴木酒蔵(大町)の300年の歴史を知る町エコミュージアム案内人の会による酒蔵見学会が行われました (3/8)。



大成功! 雪りんご

残雪の中、Asahi自然観駐車場で「雪りんご研究会(志藤修治代表)」による「雪りんご」の掘り出し作業が行われました (4/23)。



ふぶき 吉村知事と西五百川児童と一緒に田植え

県産米「つや姫」のPRをするため、榎平の棚田(能中)で吉村県知事も参加して、田植え体験が行われました (5/22)。



夏山シーズン到来! 朝日連峰夏山開き

朝日連峰の鳥原山山頂付近にある朝日嶽(あさひだけ)神社で、夏山開きの安全祈願祭が行われました (6/21)。

朝日町ホームページ内

「まちの写真館」で振り返る

2015 年

町ホームページにある「まちの写真館」では、町内のタイムリーなニュースや季節ごとの自然風景、昔ながらの文化や慣習など、町内の様々な話題を取り上げ、たくさんの写真で紹介しています。

今回は2015年に紹介した38件の中から24件をピックアップし、町の1年を振り返ります。(「まちの写真館」は過去8年間のバックナンバーもすべてご覧いただけます。ぜひご覧ください。なつかしのシーンからいろいろな思い出がよみがえってくるはずです)



大谷地区のハス田が見ごろ

この写真館は、キャリアスタートウィークで町広報を希望してきてくれた朝日中学生が作成したページです (7/2)。



第33回朝日川溪流まつり

朝日川河川公園(立木)で開催され、グループや家族連れなど約2000人が魚のつかみどりに挑みました (8/2)。



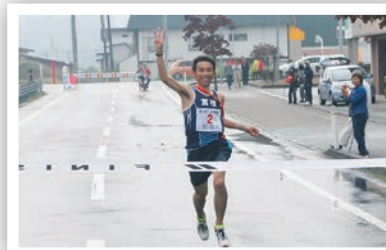
大谷風神祭

県の無形民俗文化財「角田流大谷獅子踊」が披露されたほか、田楽提灯や屋台行列が夜の地区を練り歩きました (8/31)。



第1回あさひまちミートマラソン

坂道を上る「ヒルクライム」と、放牧ブランド豚「あつぷるニュー豚」を目玉にした大会に、140人がエントリーしました (9/26)。



第32回アップル町民駅伝競走大会

町の秋の風物詩「第32回 町民アップル駅伝競走大会」が開催され、11チームが11区間(25.0キロ)をタスキでつなぎました (10/15)。



第51回朝日町芸術文化祭

51回目を数える朝日町芸術文化祭が開催されました。展示で日ごろの活動の成果を発表し、芸術の秋を堪能しました (11/3)。



「越後之島」が誕生 大沼浮島「島まつり」

島まつりとは年に1度湖畔から新たに島を切り出す神事。今年は県知事も訪れ、新しい島に「越後之島」と名づけました (7/19)。



真夏に涼を求めて…ハツ沼「ごほんどよ」

桶から滴る水に浸すことで、夏野菜の彩の美しさと真夏の暑さを和らげる涼味を表現しました (8/4)。



第36回朝日町ワインまつり

近年の国産ワインコンクールでの快挙もあり、1400席分の前売りチケットは発売開始日に完売する人気ぶりでした (9/23)。



道の駅あさひまち「りんごの森」がオープン

和合地区に整備を進めてきた総合交流拠点施設、道の駅あさひまち「りんごの森」がオープンしました (10/1)。



平成27年度町総合防災訓練

大谷地区で実施され、地域住民や消防団員などが参加し、命を守るために真剣に訓練に取り組みました (10/28)。



歴史的な建物の現地見学会

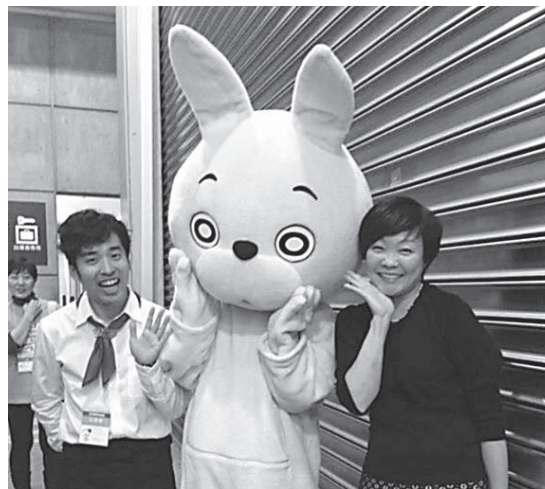
町内にある歴史的建造物を巡る見学会が、町とNPO法人町エコミュージアム協会の主催で行われました (11/15)。

首相夫人も来訪!?

エコプロダクツに榎平棚田保全会が出展

12月10日から12日にかけて、都内で開催された環境保全に関する国内最大の展示会「エコプロダクツ2015」（主催：産業環境管理協会・日本経済新聞社）に榎平棚田保全会（能中）が出展しました。

日本棚田百選（農水省）の「榎平の棚田」を全国にPRしようと、2013年に続き2度目の参加で、榎平の棚田米を紹介したほか、旬のふじりんごの試食を提供。環境活動や学習に関心のある来場者（約16万9000



安倍昭恵内閣総理大臣夫人と記念撮影



ブースを訪れた方々に、りんごと棚田米を宣伝

人）に、朝日町の特産品と棚田がある景観を宣伝しました。

展示会には、去年から棚田で米づくりに挑戦している「桃色ウサビ」も登場し、出展ブースを盛り上げたほか、安倍昭恵内閣総理大臣夫人とトークイベントで共演。昭恵夫人には朝日町ブースにも足を運んでいただき、町特産のふじりんごを振る舞い、ふるさと納税で棚田米を返礼品として使用していることなどを話しました。思いがけない驚きの交流もあり、とても実りの多い出展となりました。

2016年は申年

「干支」とは…

「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」と動物で表されている「十二支」と「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10種で1つの周期になる「十干（じっかん）」、2つを組み合わせて「干支」になります。「甲子（きのえね）」から「癸亥（みずのとい）」まで60種類。これが「還暦」です。

農業との関わりが深い

「干支」は農業と強く関係しており、農作物を栽培する際の季節や天候の目安代わりに、十二支を暦（カレンダー）として利用していました。そのため十二支には、農作物の成長の過程を12段階で表した意味があります。

動物の「サル」とは関係ない…?

では、動物の「サル」とは、どんな関係があるのか。調べてみると、なんと動物の「サル」とはまったく関係ないという事実が…。実は、元々決まっていた十二支の漢字に、たくさんの方が覚えやすい



Asahi自然観スノーパーク

今シーズンも企画目白押し!

12月19日、Asahi自然観スノーパークのスキー場開き・安全祈願祭が行われ、関係者約50人が今シーズンの無事故とにぎわいを祈願しました。この日現在の積雪量は約20センチ。残念ながらまだゲレンデは滑走可能な状況ではなく、関係者は今後の本格的な雪に期待を寄せていました。

Asahi自然観スノーパークでは、今年、トリードマークとなるロゴをリニューアル（写真右上）。また、今シーズンもたくさんの方の出して、利用拡大を図っています。



今シーズンの割引企画

スキーこどもの日	毎週土・日、祝日・年末年始（12/23～1/6）は小学生のリフトが無料
レディース DAY	毎週土曜は中学生以上の女性のリフト1日券が500円
シニアデー	毎週月曜日は60歳以上の方のリフト1日券が1,000円（祝日除く）
雪男の日	毎月第3土曜日は中学生以上の男性のリフト1日券が4時間券価格に。（例：大人3300円→2800円）
雪マジ! 19・20	19歳→リフト1日券が全日無料 20歳→リフト1日券が全日半額

■安心! 便利! Asahi 自然観無料スキーバス

スキー場営業期間中の土日祝日および年末年始（12/31・1/1）、大谷地区とスキー場を結ぶ無料のスキーバスを運行します。

【行き】大谷往来館（8:50）→役場前（9:06）→自然観（9:30）

【帰り】自然観（15:30）→役場前（15:54）→大谷往来館（16:10）

このほか町内の停留所を経由します。詳細はHP等でご確認ください。



ようにと願いを込め、動物を割り当てたそうです。なぜこのような順番なのか、それには次のようなストーリーがあります。

大昔のある年の暮れのこと、神さまが動物たちにお触れを出しました。「元日の朝、新年のあいさつに出かけてきなさい。1番早く来た者から12番目の者まで順に、それぞれ1年間、動物の大將にします」。動物たちは、「おらが1番」と、気を張って元日を待っていました。

ところが、猫は神さまのところにいつ行くのか忘れてしまい、ねずみに訊くと、ねずみはわざと1日遅れの日を教えしました。猫はねずみの話を信じて、喜んで帰っていきました。

さて元日になり、牛は「歩くのが遅いから、ひと足早く出かけよう」と夜のうちに準備をし、暗いうちに出発しました。牛小屋の天井でこれを見ていたねずみは、牛の背中に飛び乗りました。そんなことは知らず、牛が神さまの御殿に近付くと、まだ誰も来ていません。我こそ1番と喜んで待つうちに門が開き、その途端、牛の背中からねずみが飛び降り走り出し、1番になりました。それで牛は2番、それから虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の順となり、猫は1日遅れで来たので仲間に入れませんでした。それでねずみを恨んで、今でもねずみを追い

悪運のない、良い年に…

「やる」という言葉を考えると「去る」をイメージしてしまいがちですが、「去る」は「去る」でも悪運が去れば幸せが訪れます。

町民の皆さまにとって新年が「幸（さち）溢れる年」となることを祈願申し上げます。そして、朝日町の2016年も明るい話題で良い年になりますように…。



都会の子どもたちに朝日町のりんごを

りんご 交流会

with 流山市



12月3日、千葉県流山市立東小学校で「りんご交流会」が開催されました。

都会の子どもたちに町特産のりんごを食べてもらい「朝日町りんごファアン」を増やそうと始めた企画も今年で節目の10年目。町内のハレふじ(葉とらずふじ)栽培農家団体の協力を得て、毎年行われています。

この交流会の橋渡し役を務めていただいた

朝日町りんごの
おいしさを、都
会の子どもたち
にも伝えたい

きっかけをつくり
10年間交流に貢献
加藤 正さん(夏草)



交流会では、子どもたちが自分でりんごを切り、果汁がはじける瞬間の感覚を大事にしました。子どもたちからは「家族みんなで食べたよ」「食べたりんごの種をまいて芽が出たけど虫から守るにはどうするの」などの感想を聞いていますが、朝日町のりんごの味とほほえましい思い出は大人になっても忘れることはないでしょう。交流会の成果は将来きっと現れると信じています。

また、交流会がきっかけとなり、流山市の方が朝日町を訪れ、産直でりんごを買ったり、体験農業をしたりした話を聞いています。交流の輪は学校の外にも広がりました。朝日町のりんごは人と人を結びつけるすばらしい力があるとあらためて感じたところです。

が、千葉県内で教員を務め、同校長などを歴任してきた加藤正さん(夏草)。これまで10年間にわたり、毎年足を運び続け、今回も鈴木町長や生産者代表の井澤壽一町りんごアドバイザー(夏草)、JA担当者とともに訪問しました。

交流会には6年生141人が参加し、井澤アドバイザーの説明やクイズで朝日町りんごのおいしい理由を学

あけまして
おめでとございます
皆さまにとって、今年がすばらしい年でありますよう、広報委員一同心からご祈念申し上げます。

広報委員長	長岡 信悦(常盤)
同委員長	白川 広之(松程)
広報委員	鈴木 聡(本町)
	川越めぐみ(緑町)
	遠藤富美子(真中)
担当課長	安藤 尚之(真中)
担当係長	渡辺 政一(政策推進課)
担当	佐久間 淳(地域情報課)
	白田 淳(政策推進課)

【表紙の写真】

町にうつすらと雪が積もった12月18日、役場屋上から撮影しました。今年の冬は、雪が降る気配を感じさせない暖かい日が続いています。周りの山はうつすら白くなっていますが里はまだまだ。この冬ならではの町並みを収めた一枚です。

くお詫びと訂正

本誌の先月号(2015年12月号)の22頁「各種スポーツ大会文化コンクール等の入賞結果」コーナーで産経ジュニア書道コンクールの入賞者を「阿部愛美」として記載しましたが、正しくは「阿部愛実」さんの誤りでした。お詫びして訂正いたします。